

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度技術情報第13号（野菜類・花き類等のハスモンヨトウ）
について（送付）



ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が増加しており、被害の発生・増加が懸念されます。今後の発生に注意してください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnpn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

令和2年度技術情報第13号

- 対象病害虫** ハスモンヨトウ
- 対象作物** 野菜類（サトイモ、イチゴ、根深ネギ、キャベツ、マメ類等）
花き類（キク等）
ダイズ、サツマイモ
- 発生状況等**
 - 県農業開発総合センター（南さつま市金峰町）及び同大隅支場（鹿屋市串良町）に設置したフェロモントラップでの誘殺数は、平年と比べて多い傾向にあり、注意を要する（図1）。
 - 8月中旬に行った巡回調査での発生ほ場率は、サトイモで100%（平年82%）と平年よりやや高く、発生程度の高いほ場も認められた（表1）。
 - 今後は秋冬作各品目の作付けが始まるとともに、ハスモンヨトウの増殖に好適な気象条件が見込まれることから、現在発生が少ない品目についても被害の増加が懸念される。
- 防除上注意すべき事項**
 - ハスモンヨトウ若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので、ほ場を見回り早期発見に努める。
 - 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
 - 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などにも産卵し、ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがあるので注意する。
 - 老齢幼虫に対する薬剤の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。
 - 同一系統剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。

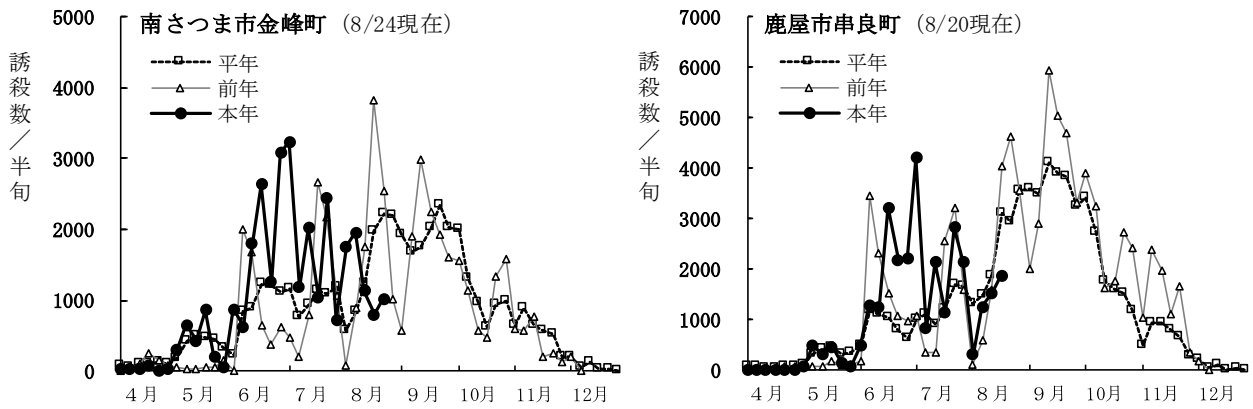


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況

表1 巡回調査(8/7~20)におけるハスモンヨトウの発生状況

対象害虫/作物名	発生ほ場率(%)			本年発生程度別ほ場率(%)					概評
	本年	前年	平年	甚	多	中	少	無	
サトイモ	100	100	82	46	31	15	8	0	やや多
イチゴ	7	21	6	0	0	0	7	93	やや少
ダイズ	33	67	73	0	0	0	33	67	やや少
サツマイモ	0	4	4	0	0	0	0	100	少
キク*	40	32	13	0	0	10	30	60	多

* キクはチョウ目害虫の被害状況の調査



図2 ハスモンヨトウ(左上:若齢幼虫, 右上:中齢幼虫, 左下:老齢幼虫, 右下:成虫)
黒褐色の斑紋(矢印)がハスモンヨトウにはあるが, ヨトウガ, シロイチモジヨトウにはない。